

## 小網代ヨット史 年表

2016年7月4日現在

西暦	和暦	創立	できごと	ヨット界・他
1948	昭和23年			在日アメリカ人を中心にCCJ(Cruising Club of Japan)結成 「舵」誌復刊
1949	昭和24年			8月横山晃シーホースで式根島往復クルージング
1950	昭和25年			戦後初の外洋レース(横浜→大島・岡田港) <span style="float: right;">朝鮮動乱</span>
1951	昭和26年		小網代湾北岸にノリス氏の<ノースレディー>(ダブルエンダーのモータークルーザー)	第1回大島レース(シルバーカップレース) <span style="float: right;">日米講和条約締結</span> JOG1号艇<アルバトロス>(6.7m 設計横山晃)進水
1952	昭和27年		12月<MUYA>(33' マッケンジー氏)小網代湾に係留	7月日本外洋ヨットレース(横浜～三崎、三崎～下田、下田～清水)
1953	昭和28年		7月<MAYA>(福永昭、関根久)横浜から回航、小網代湾に2週間係留	秋、マッケンジー氏の声かけでオーシャンレースをやるクラブを作る話が進む
1954	昭和29年		7月NORCの小網代ランデブー マッケンジー氏別荘前にNORC艇が集まりランデブーが行われた。	1月CCJを改組し、「日本オーシャンレーシング・クラブ(NORC)」を結成 米軍ヨットクラブの連中も参加し活発にレースが始まった。 3月NORCの最初のレース 木更津レース、4月館山レース <span style="float: right;">洞爺丸転覆</span>
1955	昭和30年	0	7月NORCの小網代ランデブー 7月<HURUTAKA>(20')係留 11月<WHITE CREST>(21')ゲイン氏、シーバー氏係留 NORC所属 小網代艇フリート(3艇)となる。後に、この年をクラブの創立年とした。	アメリカスカップ復活<コロンビア>が防衛
1956	昭和31年	1		7月第1回神子元島レース 10月第1回初島レース
1957	昭和32年	2	8月NORC「小網代ランデブー」(マッケンジー氏別荘前に13艇が集まった)	日本 国連に加盟
1958	昭和33年	3		
1959	昭和34年	4		木更津の米空軍の連中はヨットとともにハワイに引揚げていった。 <span style="float: right;">9月伊勢湾台風</span>
1960	昭和35年	5	5月チリ津波小網代湾に襲来	4月第1回下田レース(小網代～下田) <span style="float: right;">5月チリ津波襲来</span> 8月第1回鳥羽パールレース 京急「油壺ヨッテル」開設
1961	昭和36年	6	5月<さがみ I >大島レースで舵故障 <アーゴノート>に救助される	3月第1回伊東レース
1962	昭和37年	7	6月<モサII >くろしお南進レースでマスト折損<ネプチューンIV>に救助される FRP製外洋ヨット<かまくら>進水	4月第1回東京ポートショー <span style="float: right;">物品税改正(7.5m)</span> 4月第1回チャイナシーレース(香港～マニラ) 8月堀江謙一<マーメイド号>(19')で太平洋単独横断しサンフランシスコ到着 11月初島レースで<早風>(早大)、<ミヤ>(慶応)遭難
1963	昭和38年	8	11月23日第1回小網代カップレース	<ふじやま丸>進水 <span style="float: right;">11月ケネディー米大統領暗殺</span> <コンテッサIII>トランスパック参戦

西暦	和暦	創立	できごと	ヨット界・他
1964	昭和39年	9	2月 NORC 小網代フリート結成 3月<翔鶴>(学習院大)毘沙門沖で遭難 泊地整備作業(艇係留基準位置決定、ワイヤ敷設)(全艇参加の共同作業の始まり) 10/17NORC艇 江の島ヨットハーバー集結、夜半に撤退。	2月NORCが(株)日本外洋帆走協会(NORC)に改組 8月<チタⅡ>太平洋横断成功 10月東京オリンピック ヨット競技会場 江の島で実施
1965	昭和40年	10	5月<どんがめⅦ>大島レースに1艇のみ完走、完全優勝 9月神戸ー横浜レースで参加艇<モサⅡ>等が遭難漁船を救助 この頃、「ダイハツ」を浮棧橋として設置 小網代湾 湾奥に赤色三色灯設置	5月黒潮南進レース(下田ー三宅島ー小網代) 8月熱海ランデブー(熱海後楽園オープン) 9月神戸ー横浜レース
1966	昭和41年	11	3月<ふじ>久里浜出航 香港回航、香港マニラレースに参戦 この頃 旧クラブハウス開設	3月帆船<日本丸>航海訓練参加 第1回ワン・オブ・ア・カインド・レガッタ
1967	昭和42年	12	6月～小網代湾内の埋め立て・防波堤工事始まる(2年間の予定) この頃 アマチュア無線艇間・陸船間交信に利用開始	5月第1回八丈島レース 5月帆船<海王丸>航海訓練参加 FRP艇「ブルーウォーター21」生産開始
1968	昭和43年	13	<竜王>陳英雄がドラゴン級台湾代表でオリンピック・メキシコ大会に出場 8月NORCカーニバルがオープン直前のシーボニアで行われた 9月シーボニアヨットハーバー オープン 湾口防波堤完成	4月「ミスサンバード」チャイナシーレースに参戦 3億円事件
1969	昭和44年	14	5月小網代フリートニュース発行 5月泊地整備 共同作業でロッド(19mm鉄筋丸棒)方式のアンカーを敷設 CQR形式のアンカー(25ポンド)作成・販売 (自主販売の始まり)	太平洋単独横断レース(サンフランシスコ～城ヶ島) 7月アポロ11号月面着陸
1970	昭和45年	15		チャイナシーレースで「チタ」優勝 3月大阪万博開幕
1971	昭和46年	16	ORC会議(サンフランシスコ)に渡辺修治計測委員長参加	FRP艇「ブルーウォーター24」販売
1972	昭和47年	17	3月<オリンパスⅢ>遭難事故、捜索活動	4月第1回沖縄～東京レース 5月沖縄祖国復帰
1973	昭和48年	18	7月自作艇<たかとり>進水 11月小網代カップレース54艇参加 12月古屋徳兵衛(NEPTUNE)NORC会長就任	5月第1回アリランレース 物品税改正(9m) この頃からトンカップレース盛んになる
1974	昭和49年	19		5月小型船舶操縦士免許制度開始 7月青木洋<信天翁>で世界一周達成 第1回全日本レベルレース選手権 ORC総会で1978年クォーターン世界選手権レース日本開催が決まる
1975	昭和50年	20	9月小林則子(ケロニア)太平洋横断シングルハントレースに参加し完走	5月第1回洲本～小網代レース 9月第2回沖縄海洋博記念太平洋横断シングルハントレース 9月初のヨット専用海岸局「みさきよつと」局開局

西暦	和暦	創立	できごと	ヨット界・他
1976	昭和51年	21	6月小網代フリート親善レース(別名ウスキーレース、後に小網代フリートレース)始まる	三浦市ヨット・モーターボート税始まる
1977	昭和52年	22		3月レベルレース(トンカップ)シリーズ
1978	昭和53年	23		10月クォーターン世界選手権レースを相模湾で開催
1979	昭和54年	24	5月KFRにスキャンディキャップ採用	5月第1回小笠原レース 470級世界選手権(オランダ)で甲斐ノ小宮組が優勝
1980	昭和55年	25	8月KFR第1回初島レース	3月石原慎太郎NORC会長就任 三浦市三浦市ヨット・モーターボート税終了
1981	昭和56年	26		太平洋シングルハンドレース(サンフランシスコ～洲本)
1982	昭和57年	27	小網代オーナーズクラブ クラブ結成、規約制定	第3回パナムクリッパーレースに<飛梅>が優勝
1983	昭和58年	28	11月KFR Kマーク設置開始(亀城沖の観測ブイが撤去されたため)	5月第1回BOCアラウンド アローン世界一周レースで多田雄幸<オケラ五世> Bクラス優勝 第1回「熱海チャンピオンシリーズ」(後のジャパンカップ) 12月第1回グアムレース
1984	昭和59年	29	84～85年工事で 突堤の延長工事(石積みの基部より約50m巾2mの橋脚式棧橋)	NORC創立30周年
1985	昭和60年	30	艇大型化ルール作成・県との協議	
1986	昭和61年	31	3月艇拡大基準の適用(東部漁港事務所)、これにより艇大型化始まる。	片岡佳哉がブルーウォーター24で南極を単独航海 11月伊豆大島三原山大噴火
1987	昭和62年	32	3～4月メルボルン・大阪ダブルハンドレースに<どんがめⅧ>参加	3～4月メルボルン・大阪ダブルハンドレース ニッポンカップ国際ヨットマッチレース葉山で開催
1988	昭和63年	33	網代崎沖灯浮標設置	今給黎教子太平洋単独往復航海 バブル景気最盛期
1989	平成元年	34	第1回初島ダブルハンドレース<マックス>が優勝	5月第1回第1回関東ミドルボート選手権 消費税法施行、物品税廃止 11月ベルリンの壁崩壊
1990	平成2年	35		8月ケンウッドカップで日本チーム優勝
1991	平成3年	36	9月第1回KFR下田ランデブーレース	4月メルボルン・大阪ダブルハンド1991 7月第32回鳥羽パールレースに185艇参加 12月第7回ジャパン・グアムレースで(マリンマリン)(たか)が遭難
1992	平成4年	37	3月「小網代フリートレース15年」発刊	4月日本チーム初挑戦のアメリカズカップ、セミファイナルで敗退 7月今給黎京子日本女性初の単独無寄港世界一周達成
1993	平成5年	38		
1994	平成6年	39	環太平洋ヨットレースに<どんがめⅧ>参加(上海～大阪)	3月白石康次郎<スピリット オブ ユーコー>で最年少無寄港世界一周達成

西暦	和暦	創立	できごと	ヨット界・他
1995	平成7年	40		アメリカズカップ二度目の挑戦 1月阪神淡路大震災 3月地下鉄サリン事件
1996	平成8年	41	7月第1回「海の日」に「小網代宣言」(私たちは海を汚しません) 7月第1回「ウッディンヨットレース」	7月アトランタオリンピック女子470級で重ノ木下組銀メダル
1997	平成9年	42		NORCとJYAの統合話JYA「日本ヨット界統合準備委員会」発足 12月第7回グアムレース裁判和解
1998	平成10年	43	3月H10年度から停係泊申請に漁協の同意書不要となる。 漁協と管理委託契約締結 7月小網代通信創刊号(白崎編集長)	NORCとJYA組織統合の「基本合意書」を承認 三省通達(漁港からプレジャーボート排除不可)出される
1999	平成11年	44	4月突堤先端に陸電、水道の設備完成 どんがめ・さがみ合体	3月NORC解散し、JYAと組織統合 4月(財)日本セーリング連盟(JSAF)発足 4月NORC関東支部解散に伴い「JSAF外洋三浦支部」発足
2000	平成12年	45	3月小網代通信編集長交代(里吉編集長) 漁協にクラブハウス建設、テンドー置場等につき要請 11月ウッディンヨットクラブ設立総会	1月アメリカズカップで「日本チャレンジ」準決勝敗退 8月三宅島雄山大噴火
2001	平成13年	46	1月協力金問題、クラブハウス問題等組合との関係見直しの議論 4月KFR300回記念レース、4月東出さん一家転居 KFRレース報告書、小網代通信のメール配信開始 5月クラブハウス委員会発足 7月チーム小網代ハワイ遠征アサヒスーパーカップ参戦 8月第1回子供会体験帆走実施 8月矢矧IVハウステンボスへ 8月管理契約は未締結で推移	小型船舶測度法改正 9月11日ニューヨーク9.11テロ 5月「JSAF外洋三浦支部」を「三浦オーシャンセーリングクラブ」に名称変更
2002	平成14年	47	5月漁協よりテンドー置き場、クラブハウス建屋の案が提示された 8月KOC ホームページ開設 9月第1回オールドセイラーズヨットレース	
2003	平成15年	48	1月武田晶(ナジャ)メルボルン大阪ダブルハンドレースに参加 4月テティス小笠原クルージング 4月UFOクルージングに小網代メンバー応援参加 9月防衛大学校(走水)表敬訪問	
2004	平成16年	49	7月チーム小網代第2回ハワイ遠征 9月テンドー置き場・クラブハウス建設 具体化 10月台風被害(サモンIV他) 10月日大<桜工>学生ヨット世界選手権に参加(フランスのル・ブール)	7月パールレース五ヶ所湾スタートとなる アテネオリンピックで男子470級関ノ轟組銅メダル

西暦	和暦	創立	できごと	ヨット界・他
2005	平成17年	50	5月テンダー置き場完成 12月 クラブハウス上棟式	
2006	平成18年	51	1月故渡邊修治お別れ会 5月漁協提案のトーフによる係留方式への変更について検討開始 6/11クラブハウス完成・開所式 6月小網代オーナーズクラブ(KOC)⇒小網代ヨットクラブ(KYC)に名称変更 一般会員加入開始、公募により新クラブバージ決定 7月「小網代通信」オーナー宛メール配信主体に切り替え 11月テンダー乗り場(ポンツーン)設置 12月KYCウェブサイト開設	
2007	平成19年	52	2月最前列トーフ打ち 3月東大<仰秀>J24世界選手権出場(メキシコ) 6月ポンツーンに階段完成 9月KFR浦賀ランデブーレース	5月白石康次郎単独世界一周ヨットレース「5OCEANS」でクラス I で2位 ISAF100周年記念行事
2008	平成20年	53	10月前列より後ろを40kgの片爪アンカー、漁協ロープ(24mmX25m)の方式で工事再開 10月「小網代通信」毎月10日定期発行	
2009	平成21年	54	2月 掃海&アンカー工事 大量の捨てアンカー、チェーンの引揚げに苦闘 2月「小網代ヨット史」編纂事業決まる 3月クラブハウス監視カメラ用電柱埋設工事 7月パールレース50回記念大会で「さがみIV」クラス優勝 10月台風18号による被害(数艇のアンカーが引け、ポンツーンが流されかけた) 11月アンカー敷設最後列優先実施	7月パールレース第50回記念大会
2010	平成22年	55	3月NHK番組「心の遺伝子」(多田雄幸・白石康次郎)撮影(5月に総合テレビで放映) 7月八丈島クルージング(3艇 20名参加)	沖縄レース復活 沖縄ー東海レース開催
2011	平成23年	56	3月 東日本大震災の津波の余波 小網代湾にも襲来 4月KYCで団体倍賞責任保険加入(46艇) 4月クラブハウス2階に国際VHF「三崎ヨット」局の遠隔制御局開設 7月パールレースでテティス、ナジャ好成績 11月掃海&アンカー敷設5列目	3月11日 東日本大震災 9月「ジャパンカップ2011」シーボニアをベースに小網代沖で開催
2012	平成24年	57	5月、10月掃海&アンカー打ち 捨てアンカー引き上げに苦労(全列漁協アンカー化完了) 11月小網代カップレース第50回記念大会	JSAFが公益財団法人に移行

西暦	和暦	創立	できごと	ヨット界・他
2013	平成25年	58	2月 海外クルージング(フィリピン・プエルトガレラ) 9月3艇玉突き更新<KELONIA><かまくらⅢ><じゃがたらⅡ> 11月小網代カップ中止(伊豆大島元町土石流被害のため)	4月神戸ー横浜レース 11月伊豆大島元町土石流災害 5月「ブライント・セーリング」世界選手権2013」小網代沖で開催
2014	平成26年	59	1月停係泊許可の艇所有者を船検の所有者と合致させることになった。(東部漁港事務所) 9月台風18号被害(テンドー用ポンツーンが流れ、危うく繋ぎ止めた)	9月「ジャパンカップ2014」シーボニアをベースに小網代沖で開催 7月「小網代の森」木道一般開放
2015	平成27年	60	クラブ創立60年(式典を2016年春に行う準備に着手) 2月「舵」誌取材「舵」5月号に「ヨットクラブ探訪記」として掲載 4~7月<テティス・4>「アリランレース」「青函レース」に参加し、本州一周航海 5月掃海&最後列アンカー増設 6月「小網代ヨット史」編集作業開始 6月「小網代通信」のメール配信をオーナー宛から全会員宛に変更 10月 KFR40年記念誌編集着手 11月海外クルージング(アメリカ西海岸訪問)	4月「ソフトバンク・チーム・ジャパン」アメリカズカップ2017に挑戦を発表 6月2020年東京オリンピックヨット競技会場 江の島ヨットハーバーに決定 11月パリ同時テロ
2016	平成28年	61	3月26日小網代ヨットクラブ創立60周年式典 6月クラブハウス10年目大規模修繕工事実施 8月「小網代ヨット史」発刊 8月6日クラブハウス10周年記念パーティ	4月14日熊本地震 6月英国民EU離脱を選択